

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人岩手大学

1 全体評価

岩手大学は、「岩手の大地とひとと共に」をスローガンに、地域の中核的学術拠点として地域を担う指導的人材の育成とその基盤となる学問諸分野の研究を行い、また、被災県にある国立大学として地域の復興推進に取り組むことを目指している。第3期中期目標期間においては、地域を先導する大学として、地域再生の課題解決をはじめ地域社会の持続的発展のための課題を中心に置きつつグローバルな視点も含めた教育・研究・社会貢献等の活動を展開し、地域に根差して成果を世界に発信するとともに、復興と地域創生を絡めた新たな教育・研究の国際展開に全学を挙げて挑むこと等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、地方公共団体と連携して釜石キャンパスを整備するとともに、学部を横断したグローバルな教育プログラム等を拡充するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 学部横断の教育プログラム「IHATOVOグローバルコース」と学生の自主的な国際交流活動等に対してマイルを付与する「Global Mileage制度」の制度利用者が順調に増加し、中期計画に設定する達成目標にほぼ達していることが確認できるとともに、付与されたマイルに対するインセンティブとして獲得上位者について学期ごとに表彰することとしている。（ユニット「『いわて協創人材』に求められる教育のグローバル化の推進」に関する取組）
- 地域で実施する学生のインターンシップ数を増加させるため、岩手県の産業振興担当者と意見交換会を開催し地域課題の共通認識を持つとともに、県北ものづくり産業ネットワーク会員企業を対象にした大学の研究施設見学会を実施し、受入先となる地域企業の裾野を拡大した結果、インターンシップ数は第2期中期目標期間を上回る実績を出している。（ユニット「三陸復興事業及び地域連携事業を長期的に継承する体制の整備」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営	○					

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、特筆すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について特筆される。

○全国初となる地方公共団体からの補助金を活用した釜石キャンパスの整備

釜石キャンパスにおいて総合教育研究棟を整備するにあたって、地方公共団体等からの補助金（岩手県、釜石市及び国）を活用している。特に建物のうち生物系実験室部分について県と市の補助金により整備するとともに、敷地内の環境整備については、市からの補助金により整備している。地方公共団体からの補助金を活用した整備事業は、東北地区の教育施設として初めての取組であり、新築の教育施設としては全国で初めてとなっている。これらの資金獲得策に加えて、学長のトップマネジメントによる資源配分方針に則り、大学の資源も釜石キャンパスに重点的に配分し、釜石キャンパスの学生宿舎や図書館蔵書等の充実を図っている。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 留学生と日本人学生が共修する多種多様な国際教育

多言語多文化交流空間Iwate University Global Villageでは、①イベント・ワークショップ（国際交流・異文化理解・地域理解）②日本語カフェ（日本語で留学生と交流、会話）③English Time（英語個別相談、指導）など、多角的な課外国際教育3事業を展開している。実施にあたり、専任の特任助教が中心となることで、専任教員、関係部局、学生スタッフが連携して活動を拡充し、年間活動総数は205回、参加人数総計は延べ1,589名（うち、留学生688名：43%、日本人学生（全学部から）901名：57%）と大幅な拡大を実現している。

○ 「国際防災・危機管理研究岩手会議」の開催

研究の国際認知度向上の取組として、岩手大学・ハーバード大学（米国）・清華大学（中国）が主催する「国際防災・危機管理研究岩手会議」を開催し、大学の東日本大震災での取組や地域防災研究センターを中心とした防災に関する研究を国際社会に広くアピールしている（16カ国及び地域から合計587名が参加）。